※令和５年度以降入学生用

| 学校番号 | 2001 |
|---|---|

# 令和８年度　数学科

| 教科 | 数学 | 科目 | 数学Ａ | 単位数 | ２単位 | 年次 | １年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | 高等学校 数学Ａ(数研出版) | | | | | | |
| 副教材等 | サクシード 数学Ⅰ＋Ａ(数研出版)，チャート式 解法と演習 数学Ⅰ＋Ａ(数研出版) | | | | | | |

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする数学的活動を行います。
・問題集用のノートを用意してください。
問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。
(1)知識及び技能
図形の性質,場合の数と確率についての基本的な概念や原理･法則を体系的に理解するとともに,数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に表現・処理したりする技能を身につける。
(2)思考力・判断力・表現力等
・図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する。
・不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断できる。
・数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察できる。
(3)学びに向かう力、人間性等
・数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深め，評価・改善したりしようとする態度を養う。
・数学的活動を通して、創造性の基礎を養う。

※令和５年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 | 図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。 | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 |
| 上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。 | | | |

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| １学期 | 第１章場合の数と確率 | 第１節場合の数<br>１　集合の要素と個数 | a:和集合や補集合について理解し，要素の個数の公式を利用できる。ベン図を利用することで和集合や補集合の要素の個数を求めることができる。具体的な日常の事象に対して，集合を考えることで人数などを求めることができる。<br>b: ベン図を利用して集合を図示することで，集合の要素の個数を考察することができる。<br>c:集合を考えることで，日常的な事柄などを，集合の要素の個数として数学的に数えようとする。表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し，それを利用しようとする。 | 定期考査<br>確認テスト<br>提出ノート | 定期考査<br>提出ノート<br>ワークシート等 | 観察<br>提出ノート<br>振り返りシート<br>発表等 |

※令和５年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１節場合の数<br>２ 場合の数 | a:樹形図を用いて，場合の数をもれなくかつ重複なく数えることができる。和の法則，積の法則の利用場面を理解し，事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。<br>b:場合の数を数える適切な方針や自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。<br>c:道順の数え方に興味を示し，樹形図，和の法則や対称性などによる場合の数の数え方や自然数の正の約数の個数を数えること，式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。 | | | |
| | | 第１節場合の数<br>３ 順列 | a:順列の総数，階乗を記号で表し，それを活用できる。順列，円順列，重複順列の公式を理解し，利用することができる。順列，円順列に条件が付く場合に，条件の処理の仕方を理解している。<br>b:条件が付く順列，円順列を，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。既知の順列や積の法則をもとにして，円順列，重複順列を考察することができる。<br>c:既知である積の法則から順列の総数を求める式を導こうとする。色の塗り分けの方法を数えるのに，順列の考え方が使えることや順列，円順列，重複順列の違いに興味・関心をもつ。 | | | |

※令和５年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第１節場合の数<br>４ 組合せ | a:組合せの総数を記号で表し，それを活用できる。また，組合せの公式を理解し，利用することができる。組合せの条件が付く場合に，条件の処理の仕方を理解している。組分けの総数や同じものを含む順列の総数を求めることができる。<br>b:既知である順列の総数をもとにして組合せの総数を、同じものを含む順列を組合せや順列で考察することができる。条件が付く組合せを，見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。<br>c:順列と組合せの違いや組合せの考え方を利用して図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。重複組合せについて理解し，その総数を，順列や組合せの考えを適切に用いて求めようとする。 | 定期<br>考査<br><br>確認<br>テスト<br><br>提出<br>ノート | 定期<br>考査<br><br>提出<br>ノート<br><br>ワーク<br>シート等 | 観察<br><br>提出<br>ノート<br><br>振り返り<br>シート<br><br>発表等 |
| | | 第２節確率<br>１ 事象と確率 | a:確率の意味，試行や事象の定義を理解し，試行の結果を事象として表すことができる。確率の定義を理解し，確率の求め方がわかる。<br>b:試行の結果を事象として捉え，事象を集合と結びつけて考察することができる。不確定な事象を同様に確からしいという概念をもとに，数量的に捉えることができる。<br>c:1 個のさいころを繰り返し投げる実験などを通して，統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。 | | | |

※令和５年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第２節確率<br>２ 確率の基本性質 | a:積事象，和事象の定義や確率の基本性質を理解し，和事象，余事象の確率の求め方がわかる。確率の計算に集合を活用し，複雑な事象の確率を求めることができる。<br>b:集合の性質を用いて，確率の性質を一般的に考察することができる。<br>c:加法定理などを利用して，複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。 | 定期考査<br>確認テスト<br>提出ノート | 定期考査<br>提出ノート<br>ワークシート等 | 観察<br>提出ノート<br>振り返りシート<br>発表等 |
| | | 第２節確率<br>３ 独立な試行と確率 | a:独立な試行の確率や複雑な独立試行の確率を，公式や加法定理などを用いて求めることができる。反復試行の確率や複雑な反復試行の確率を，公式や加法定理などを用いて求めることができる。<br>b:独立な試行の確率を，具体的な例から直観的に考えることができる。既習の確率の知識を利用して，反復試行の確率について考察することができる。<br>c:独立な試行の確率や具体的事象について反復試行の確率を，興味をもって調べようとする。 | | | |
| 2学期 | | 第２節確率<br>４ 条件付き確率 | a:条件付き確率を，記号を用いて表すことができる。条件付き確率の式から確率の乗法定理の等式を導くことができる。条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。<br>b:既習の確率と条件付き確率の違いについて，図や表などを用いて考察することができる。<br>c:条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち，積極的に活用しようとする。条件付き確率を利用して原因の確率が考えられることに興味をもち，考察しようとする。 | | | |

※令和５年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 第２節確率<br>５ 期待値 | a:期待値の定義を理解し，期待値を求めることができる。<br>b:結果が不確実な状況下において，どの選択が有理かを判断する基準として，期待値の考えを用いて考察することができる。<br>c:日常の事象における不確実な事柄について判断する際に期待値を用いて比較し考察しようとする。 | 定期考査<br>確認テスト<br>提出ノート | 定期考査<br>提出ノート<br>ワークシート等 | 観察<br>提出ノート<br>振り返りシート<br>発表等 |
| | 第２章図形の性質 | 第１節平面図形<br>１ 三角形の辺の比 | a:線分の内分・外分，平行線と比などの基本事項を理解している。定理を適切に利用して，線分の比や長さを求めることができる。<br>b:図形の性質を証明するのに，既習事項を用いて論理的に，また適切な補助線を引いて考察することができる。<br>c:線分を内分・外分する点や，三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 | | | |
| | | 第１節平面図形<br>２ 三角形の外心・内心・重心 | a:三角形の外心，内心，重心の定義，性質を理解している。<br>b:図形の性質を証明するのに，間接的な証明法である同一法が理解できる。<br>c:三角形の外心，内心，重心に関する性質に興味を示し，積極的に考察しようとする。 | | | |
| | | 第１節平面図形<br>３ チェバの定理･メネラウスの定理 | a:チェバの定理，メネラウスの定理を理解し，三角形に現れる線分比や図形の面積を求める問題に活用できる。三角形の存在条件や，辺と角の大小関係について理解している。<br>b:チェバの定理，メネラウスの定理について，論理的に考察し，証明することができる。<br>c:チェバの定理，メネラウスの定理に興味を示し，積極的に考察しようとする。三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を，論理的に考察しようとする。 | | | |
| | | 第１節平面図形<br>４ 円に内接する四角形 | a 円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。円に内接する四角形の性質を利用して角度を，また四角形が円に内接するための条件を利用して円に内接する四角形を求めることができる。 | | | |

※令和５年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | b:円に内接する四角形の性質や，円に内接する四角形の性質に着目し逆に四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。<br>c:三角形の外接円は必ず存在するが三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから四角形が円に内接する条件を考察しようとする。 | | | |
| ３<br>学<br>期 | | 第１節平面図形<br>５ 円と直線 | a:円の接線の性質を利用して線分の長さを，円の接線と弦の作る角の性質を利用して角度を求めることができる。方べきの定理を利用して，線分の長さなどを求めることができる。<br>b:円と直線を動的にとらえて，それらの位置関係を考察することができる。方べきの定理について，対象とする図形に応じて見方を変えて考えることができる。<br>c:相似を利用した方べきの定理の導き方や方べきの定理の逆が成り立つことに興味・関心をもつ。 | 定期<br>考査<br><br>確認<br>テスト<br><br>提出<br>ノート | 定期<br>考査<br><br>提出<br>ノート<br><br>ワーク<br>シート等 | 観察<br><br>提出<br>ノート<br><br>振り返り<br>シート<br><br>発表等 |
| | | 第１節平面図形<br>６ ２つの円 | a:2 つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができ，共通接線の定義を理解しそれの求め方がわかる。<br>b:2 つの円を動的にとらえて,それらの位置関係を考察することができる。<br>c:2 つの円の位置関係と,中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。 | | | |
| | | 第１節平面図形<br>７ 作図 | a:中学校で学んだ垂線の作図を知っている。線分の内分点・外分点の作図や，$\frac{b}{a}$ や $ab$ の長さをもつ線分の作図ができる。$\sqrt{a}$ の長さをもつ線分の作図の方法を文章で表現し，得られた図形が確かに条件を満たすことを証明することができる。<br>b:平行線と線分の比の性質を利用して，内分点・外分点の作図の方法や，$\frac{b}{a}$ や $ab$ の長さをもつ線分の作図の方法を考察することができる。<br>c:数学で扱う作図と，日常において図形をかくことでは，何が違うか考えてみようとする。正五角形 | | | |

※令和５年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | の作図の手順を理解し，正五角形以外にもいろいろな図形の作図に興味・関心をもつ。コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして，作図の方針を立てようとする。 | | | |
| | | 第２節空間図形<br>１　直線と平面 | a:空間における 2 直線の位置関係やなす角を理解している。<br>b:空間における直線と平面が垂直になるための条件を，与えられた立体に当てはめて考察することができる。空間における直線や平面が平行または垂直となるかどうかを，与えられた条件から考察することができる。<br>c:空間における図形の位置関係について，積極的に考えてみようとする。 | 定期考査<br>確認テスト<br>提出ノート | 定期考査<br>提出ノート<br>ワークシート等 | 観察<br>提出ノート<br>振り返りシート<br>発表等 |
| | | 第２節空間図形<br>２　空間図形と多面体 | a:正多面体の特徴を理解しそれに基づいて面，頂点，辺の数を、また正多面体どうしの関係を利用して正多面体の体積を求めることができる。<br>b:正多面体の満たす条件を理解し，正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。<br>c:オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。オイラーの多面体定理を利用すると，正多面体の面の形から面の数が限定されることに関心をもつ。 | | | |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度